

JR西労組2028男女平等参画行動目標 ～誰もが参加し、支え合い、輝ける組織へ～

《行動目標》

1. 多様な仲間の結集と男女平等参画を通じた労働運動の活性化
2. 働きがいのある仕事の実現
3. ワーク・ライフ・ユニオン・バランスの実現

《具体的な目標》

1. 役員参画に関する目標

ステップ①: 女性役員（※特執・会計監査を含む）未選出組織の解消をめざしつつ、各組織の実態を踏まえた役員体制とする。

ステップ②: 男女の組合員比率に応じた役員を選出する。あわせて、将来的な女性役員登用にに向けた育成と経験機会の拡大を図る。

チャレンジ①: 執行機関の女性役員比率を30%以上にする。

チャレンジ②: 女性を三役に出す。

2. 大会・委員会への参画率についての目標

ステップ①: 女性のいない大会・委員会をなくす（本部、地本・総支部、支部）。

ステップ②: 議決機関へのそれぞれの組織における組合員比率に応じた女性の参画機会を確保する。

チャレンジ: 決定権を持つ男女参画割合を女性組合員比率以上にする

3. 男女平等参画（ジェンダー平等）推進に関する取り組み目標（※組織内に女性組合員がいない場合でも積極的に取り組む目標）

取り組み①: トップリーダー自らが、男女平等参画推進のメッセージを発信する。【本部、地本・総支部】

取り組み②: 多様な仲間が多様な形態で参加できるよう活動スタイルを点検し、見直す。（例: WEBを活用する、時間帯を見直す、など）

取り組み③: 各級機関で展開される啓発活動に参画する。（例: パンフレット配布、上部団体主催の勉強会に参加、など）

取り組み④: 執行機関で会議や勉強会を開催し、好事例については共有化を図る。【本部、地本・総支部】

取り組み⑤: 新任役員を選出できた場合はフォローを実施する。（例: 活動に参加する前のレクチャー、意識づけ、など）

J R西労組 2028 男女平等参画行動目標

～ 行動目標に対するトップメッセージ～

誰もが参加し、支え合い、輝ける組織へ



西日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長 羽野 敦之

男女平等参画の推進は、女性役員の数を増やすことだけを目的とするものではありません。

性別にかかわらず、誰もが組合活動に参加しやすく、それぞれの経験や考えが意思決定に生かされる組織をつくる取り組みです。多様な視点を取り入れることは、職場の課題をよりの確に捉え、労働組合の持続性や組織力を高めることにつながります。

JR西労組は、JR連合の男女平等参画行動目標に基づき、2008 年から取り組みを進めてきました。女性ネットワーク委員会や女性役員意見交換会などを通じて、女性組合員の声を集約するとともに、ユニオンカレッジなどの教育機会を通じた役員の育成やさまざまなイベントでの交流、さらには春闘などの労使交渉を通じて働きやすい職場環境づくりを進めてきました。一方、女性組合員の割合が 17.7%であることに對して、女性役員比率は 11.4%にとどまっています。その背景には、これまでの当たり前と思っていた活動スタイルが、現在のライフスタイルに応じた形になっておらず、活動の時間や場所、性別に基づく役割分担の固定観念、育成機会や役員選出後のサポートなど、組織として見直すべき課題があると考えています。

その課題に対する実効性を高めるため、中央本部は第 38 回定期中央本部大会において、現在の女性比率や各級機関の実態を踏まえた、「2028 男女平等参画行動目標」を策定しました。2028 年までに、まず女性役員未選出組織の解消をめざし、各職場での組合員比率に応じた役員選出へとつなげるとともに、将来に向けた育成と経験の機会を各級機関で広げていきたいと考えています。また、女性のいない大会・委員会をなくし、当事者としてさまざまな意思決定の場への参画を着実に進めていきます。

大切なのは、女性を役員に選出して終わりにしないことです。選出された女性役員に女性全体の代表として過度な役割を求めるのではなく、誰もが自分らしく、安心をして発言し、活動を継続できる環境を整えていかなければなりません。そのため、課題としている活動の時間・場所・方法を点検し、活動機会の充実、新任役員へのフォロー、好事例の共有など、一つひとつの取り組みを積み重ねていきます。

男女平等参画は女性だけの課題ではなく、すべての組合員に関わる組織づくりです。

私自身も中央執行委員長として取り組みを進めていきますが、この目標は一部の役員だけで実現できるものではありません。各級機関の皆さんと課題を共有し、そして一緒に考え、中央本部として必要な支援を行いながら、できることから一つずつ着実に前へ進めていきます。誰か一人に任せるのではなく、それぞれの立場で一步を踏み出し、「誰もが参加し、支え合い、輝ける組織」を皆さんとともに創っていきましょう。